

自己評価報告書

平成 23 年 6 月 10 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530135

研究課題名（和文） 日露関係における対立から協調への転換についての総合的研究

研究課題名（英文） A comprehensive research about the change from the conflict to the cooperation between Russia and Japan

研究代表者

寺本康俊 (Teramoto Yasutoshi)

広島大学・大学院社会科学部・教授

研究者番号：00172106

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：外交史、国際関係史、外交、世論、日露

1. 研究計画の概要

日露戦争から第1次世界大戦の間における日露関係の対立から協調への外交関係の大きな変容について、日露、英露、日米、露米関係などの国際的視点から調査する。

日本、ロシア、イギリス、アメリカの国立公文書館、外交資料館、新聞資料などの資料収集を行う。

2. 研究の進捗状況

研究方法としては、日本、ロシア、イギリス、アメリカなどの関係各国の外交関係を分析するための外交資料の収集、日本とロシアの新聞等のメディアの中の日露関係世論の変化分析を中心に研究を実施している。

日英関係の重要な外交資料が所蔵されているイギリスの国立公文書館、また、従来殆ど未公開で、当時のロシア外交の状況が不明であったロシアの戦前の外交資料が近年徐々に公開されつつあるロシア帝国外交史料館などで、新たな外交資料などを精力的に収集して、イギリスやロシアの貴重な外交資料を収集した。また、アメリカ側の動向を分析するために、アメリカの外交資料を収集中である。そして、その一方、日本やロシアの世論の動向を示す日本とロシアの各種の新聞資料などをかなり収集し、それを分析検討し、当該研究のまとめの基盤ができつつある。

この結果、日露戦争以後第1次世界大戦までの日英露関係は、日米関係が冷却する中で、日露関係が良好になることが英露関係の改善のための前提条件であること、即ち、この時期、日露間の外交関係の変化は

日露の直接関係というよりは日露をめぐる、日英、英露、日米関係などの国際関係変容をめぐる国際関係上の要請、重層的かつ多角的関係が大きな影響を与えたこと、また、アメリカが日露協定の秘密協約の存在に強い関心を見せていたことなどが資料的に明らかになった。

そして、世論の面では、当時の日露両国の世論は外交情勢とは別の状況でかなり好転を見せていくこと、特にロシアの新聞等で日本に対する論争や日本でのロシア特派員の記事が日本に対する新たな関心を生み、不可解、敵意というイメージが次第に失せ、それは国家の日本間にも影響を与えたこと、つまり当時のロシア国内でも世論が外交に影響を及ぼし始めていたこと、などを明らかにできた。

これらの研究のうち、幾つかは既に論文、学会発表、書籍などで公表している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している：これまで海外出張を精力的に行い、研究の重要部分である資料収集はかなり進んでいると判断できる。

4. 今後の研究の推進方策

今後、アメリカ側の外交資料収集と関係各国の外交資料の分析、検討を行い、関係研究者で研究のまとめを行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

1. ミハイロバ・ユリア, Japan and

Russian-Japanese Relations in Representation of Russian Newspapers: 1906-1910, Acta Slavica Japonica, 査読有, 第 30 巻, 2011, 印刷中

2. トルストグゾフ・セルゲイ, 「日露戦争後の日露関係回復についての一考察」、『東アジア研究』(大阪経済法科大学), 査読有, 2010 年 12 月, 第 54 号, 47-60 頁

3. ミハイロバ・ユリア, “It is extremely difficult to know Japan” : Dmitrii Pozdneev on Japan and Russian-Japanese Relations (Познать Японию чрезвычайно сложно» Дмитрий Позднеев о Японии и русско-японских отношениях, 日本は分かりづらい国である: ドミートリーポズネエフによる日本と日露関係について考察), *Proceedings of Institute of the Oriental Studies of the Far Eastern National University* (Известия Восточного Института Дальневосточного Государственного Университета), 査読有, Vol.16, 2010, pp. 26-41

4. ミハイロバ・ユリア, Россия и Япония: Образы и репрезентации (ロシアと日本: イメージと表象), *Знакомьтесь Япония*, no.50, 査読有, 2009, pp34-42

5. ミハイロバ・ユリア, Политическая карикатура Японии периода Мэйдзи: становление канона (明治期における日本の政治的風刺), in Японская мозаика, *A Collection of Articles in Honor of Professor V.N. Goregliad*, 査読有, St.Petersburg, 2009, pp. 149-169

6. トルストグゾフ・セルゲイ, Российско-японские отношения и Мировая политика. 1905-1907 гг. (日露関係と国際政治.1905-1907), *Voprosy istorii* (No.09), 査読有, 2008 年 9 月, pp. 17-28.

[学会発表] (計 3 件)

1. ミハイロバ・ユリア, Literary Responses to the Russo-Japanese War: Art, Espionage and Imperialism, American Association for Slavavic, East European and Eurasian Studies, 22 November 2010, Los Angeles (USA)

2. ミハイロバ・ユリア, Japan and Russian-Japanese Relations in Representation of Russian Newspapers: 1906-1910, VIII International Council for Central, East European and Eurasian Studies, 27 July 2010, Stockholm (Sweden)

3. トルストグゾフ・セルゲイ, 財政・経済恐慌と革命, ロシア史研究会例会, 東京, 2009 年 5 月 30 日

[図書] (計 2 件)

1. ミハイロバ・ユリア, 「日露戦争後のロシアの新聞に見る日露関係と日本 (1906-1910 年)」中村・長縄・ポダルコ・ピョートル編『異郷に生きる V—来日ロシア人の足跡』成文社, 2010 年, 75-91 頁

2. 寺本康俊, Japanese Diplomacy Before and After the War: The Turning Point on the Road to the Pacific War, *The Treaty of Portsmouth and Its Legacies*, (ed.) Steven Ericson and Allen Hockley, Dartmouth College, 2008, pp24-40

[その他]